2018年1月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第492号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円（本体139円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター　〒162-0836　東京都新宿区南町20
編集　アクセス編集委員会　TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

第30回 地方文化功労賞 特別賞を受賞

知里幸恵というアイヌ女性の評伝 ★☆★

「北の詩と人」の本はこうして生まれた

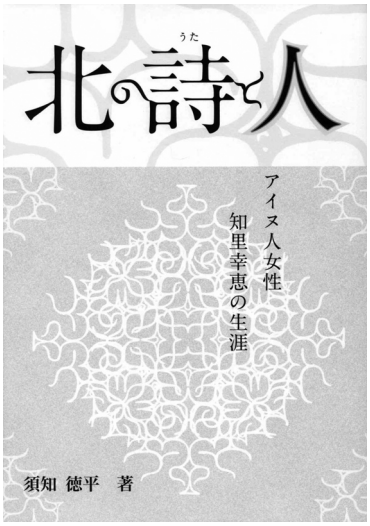
文／岩手日報社出版部元専任部長・川守田進一

「北の詩と人」が第30回地方文化功労賞特別賞を受賞したことは、編集に携わった自分にとって大きな驚きであるとともに、さまざまな方々の協力の賜であると改めてかみしめている次第です。

新聞社の出版部門は決して花形の部署とは言えません。本が売れないといわれ続けていますが新聞社も例外ではなく、人数が減らされたり、他の部署と統合されたり、あるいは別会社化したりという具合です。弊社も例外ではなく、この本の話があった時には他部署と統合され、出版専任は2人だけでした。私と、もう1人は女性社員。この2人で本の企画・編集・販売・営業まで行っていました。

作者の須知徳平氏は、岩手出身の作家。ご遺族が出版の遺志を受け継ぐ

「北の詩と人」出版の話が舞い込んだのは東日本大震災の前の2009年ごろだったでしょうか。この小説は私が岩手日報社に入社する以前の1977年3月から9月にかけて181回にわたって連載されました。作者の須知徳平氏は岩手出身で講談社児童文学新人賞、吉川英治賞を受賞した作家でした。1980年からは岩手日報社が発行する文芸誌「北の文学」の編集委員を務めています。その後、盛岡大学文学部で教鞭を執られました。2009年に87歳で亡くなられています。この小説の出版は須知徳平氏の長年の希望だったとご子息の結太郎さんから伺いました。



【北の詩と人　アイヌ人女性・知里幸恵の生涯】須知徳平著／岩手日報社刊／A5判・429頁／発行：2016年5月／定価2,970円／ISBN978-4-87201-417-4

徳平氏が亡くなった後、結太郎さんが岩手日報社を訪問され、当時の会社幹部に「ぜひ岩手日報社から出版してほしい」旨を願い出たそうです。私はその場に同席していなかったので話は当時の学芸部長を通じてのものでした。さて、正直言って困りました。出版部は販売局に所属しており、営業部門の一つですから収益を上げなければなりません。果たして昔連載した小説が今になって売れるものかどうか。「須知徳平」の名前は一部の人には知られているものの、今の人たちに受け入れられるのか。まして、題材が金田一京助とアイヌの女性の交流という古い話です。

そのような中、私が心臓の問題で入院を余儀なくされ、さらに東日本大震災が発生し、小説の書籍化の話はしばらく途切れます。小説の発行どころではなくなり、出版部門は震災の被害状況を伝える報道写真集の出版にシフトします。想像を絶する大きな被害に、写真集の需要も高まり増刷を繰り返し、新たな震災関連書籍を出版する仕事が続きました。とにかく震災がらみの仕事で手いっぱいの状態でした。後から聞いた話ですが、徳平氏の奥様は津波で大きな被害を受けた陸前高田市の出身で、結太郎さんも震災後にさまざまな対応に追われたようです。

181回分の新聞連載を読む。本づくりの課題点も見つかるが工夫で克服

震災からしばらくして、小説の仕事に取りかかりました。とりあえず読んでみなくては何とも言えません。データベースで当時の紙面を検索し、全181回分の紙面を仕事の合間を縫ってプリントして読んでみました。同時に岩波文庫の知里幸恵著「アイヌ神謡集」も買い求めました。徳平氏の小説は知里幸恵というアイヌ女性の評伝といった内容で、多くは著者が先輩として尊敬していた金田一京助氏から聞いた話と北海道での取材で得た素材で書き上げたもののようでした。この当時の紙面のデータベースは画像として保存されているだけでテキストデータがありません。「これは制作に時間がかかりそうだ」と思いました。また、経費分の売り上げを確保するために、結太郎さんには制作費を負担してもらう自費出版を打診しました。それは実現しませんでしたが、書籍をある程度の冊数買い上げてもらうことになりました。

さて、小説を読んでみて気になる点も見つかりました。例えば表記の問題です。連載当時の紙面ではルビがほと

んどありません。また、上京の際に幸恵が乗った船が話の前後で違った名前で出てくることもありました。本来ならこのような間違いは新聞紙面に掲載するときに直すべきものです。幸いにもこれは県立図書館で見つけた室蘭市史で確認して直しましたが、いくつかそのような個所がありました。

テキストについてはすべてを最初から入力する覚悟でした。ところが結太郎さんから「データがある」という話が出てきました。徳平氏が主宰していた文章教室の受講者の方々が手分けして打っていたというのです。渡りに舟と早速データを取り寄せて読んでみました。しかし、連載した原文と似たようでいて違う部分もあるというものでした。思うに、このデータは小説の文章を素材に、受講者らが自分なりの文章を書いたものではなかったのでしょうか。たぶんそれを徳平氏が添削していたのかもしれません。ただ、そのデータでも利用できる部分はあるので活用させていただきました。パソコン上で連載時の原稿に直しながらデータ化していく作業をしばらく続けました。

データを印刷会社に渡してページの組み見本をつくってもらうとともに、ページ数を算出してもらうと驚いたことに400ページということでした。私の甘い当初予想では300ページだったのです。制作費も予想より高くなりました。経緯はその都度担当局長に報告していましたが、ますます厳しい状況となってきました。それでも2015年秋に北海道出張の帰りに函館の北方民族資料館でアイヌについての知識を仕入れ、表紙カバーに使えそうなアイヌの衣服の紋様が描かれた冊子を求めました。とにかくいつでも出版できるように中身はそろえておきました。2016年春の出版委員会で翌年度の出版計画を承認してもらうことになりました。担当局長が「これは出版しなければならない本です」と役員らに説明してくれたおかげでだいぶ肩の荷が下りました。

納品された本を携え、登別市の「知里幸恵　銀のしずく記念館」を訪問

出版委員会を終え、急ピッチで制作を進めました。帯の文章を学芸部長を通じて盛岡在住の直木賞作家・高橋克彦氏に依頼して書いていただくなど、多くの協力を得ることができ、無事に納品にこぎつけました。納品された本を持って私は北海道に旅立ちました。北海道新聞社の読書欄に書評掲載を依頼するのと、登別市の「知里幸恵　銀のしずく記念館」を訪問するのが目的でした。北海道新聞では知り合いの出版センター長とともに文化部長さんとデスクの方にお会いしてきました。ひと仕事終えたその夜のビールのおいしかったことは忘れられません。翌日は北海道の大地を特急列車で登別へ。

登別は知里幸恵の生まれ故郷です。そこに「知里幸恵　銀のしずく記念館」があります。本はあらかじめ送っておきました。横山むつみ館長は幸恵の姪に当たる方で、こちらの突然の訪問を温かく迎えてくれました。横山館長は「岩手日報に知里幸恵の話が小説として連載されていたことは、本を送っていただくまで知りませんでした」と語り、読んだ感想を語ってくれました。ただ、小説の中に何カ所か間違いがあることも指摘されました。編集段階でこの施設を訪問するなど深い取材をしていれば防げたミスではなかったかと後悔した次第です。

記念館では幸恵の直筆原稿の丁寧な筆跡に心を奪われました。彼女の向学心やアイヌを愛する心がそのまま表れているように思いました。横山館長には後日、北海道新聞に書評を書いていただきました。また、記念館をたびたび訪問されている東京新聞の記者を紹介いただき、本をお送りして記事掲載をお願いすることができました。本当にいろいろな方との出会いがこの本をつくってくれたのだと、今改めて思います。登別では最後に丘の上の墓地に案内され、5月のさわやかな風が吹き渡る中、幸恵の墓前で本の完成を報告しました。

横山館長はその年の9月、病気で死去されました。生前にこの本を読んでいただけたことが少しでも供養になったのではないかと思います。

（かわもりた　しんいち・岩手日報社出版部元専任部長）

著者ご子息の受賞の言葉

この受賞を機に、多くの方々にこの物語を読んでいただきたいと願っております。

この度は鳥取県の皆様から多大なる評価をいただきありがとうございます。また感謝申し上げます。

父・須知徳平（佐川茂）は、旧制盛岡中学校時代に作家を志し、同郷の金田一京助氏がアイヌ語の研究をすすめていく傍ら、親しくさせていただくとともに、お世話になっていました。

若かりし頃、父は、「先生と知里幸恵さんとのことをぜひ私に書かせていただけませんか」と、生意気にもお願いしました。金田一氏は、「そうかい、君が書いてくれるのかい。幸恵はね、とっても素晴らしい娘なのだよ。本当にありがとう」と何回も父に感謝の言葉を述べてくれたそうです。作家として、多忙であった金田一氏から「知里幸恵さんに関係する書簡資料等」を借り受け、この物語を書き上げることができました。

その後、岩手日報社の新聞小説に掲載されることになったのです。生前、「この物語は、どうしても単行本にしたい」と何度も願っておりましたが、叶わず、死後になってやっと刊行することができました。

この受賞を機に、多くの方々にこの物語を読んでいただきたいと願っております。

以上、受賞の挨拶とさせていただきます。**（長男：須知結太郎＜スチユウタロウ＞）**

新刊ダイジェスト

※価格は税込（消費税率8%）表示です。

『ほっとかない郊外　－ニュータウンを次世代につなぐ』●泉北ほっとかない郊外編集委員会編著

1960年代後半の高度経済成長期、東京、大阪など大都市圏郊外の緑豊かな丘陵を開発したニュータウンは国民の憧れ、夢であった。それから半世紀、住民の高齢化が進行した今、皮肉にもそこは高齢者の住む環境でなかったことが露見した。空き家増加、人口減少。大阪府堺市の泉北ニュータウンも例外ではない。でもここはかけがえのない終の棲家。現状をなんとか変えようと地域内のＮＰＯ法人、企業、大学、行政が「ほっとけない精神」で立ち上がった。まずは住民アンケート、そして、高齢者の生活を支援する住と食の拠点づくり。次いで、寝に帰るだけの場所から、暮らし、働き、楽しむ場所への「職住一体居住」イノベーション。街の魅力を再発見し、街を楽しもうと様々な住民参加企画。こうした「泉北スタイル」を構築していこうとする人々の奮闘記。この街に住み、明るく生きようという気持ちさえあれば社会は変わる。「泉北スタイル」は全国ニュータウン再生モデルだ。

◆２０５２・円・四六判・２７２頁・**大阪公立大学共同出版会**・大阪・２０１７/１０刊・ISBN9784907209766

『宮本研エッセイ・コレクション１　１９５７－６７　夏雲の記憶』●宮本　研著

戦後を代表する劇作家である宮本研は、昨2016年俳優座と文化座で立て続けに上演されて話題を博した『反応工程』や岸田戯曲賞受賞の『日本人民共和国』などの《戦後史四部作》をはじめ、『阿Ｑ外傳』などの《革命伝説四部作》、田中正造を扱った代表作『明治の柩』など、現在でも多くの劇団で上演され続けている数々の傑作・名作劇を書き残した。

また、宮本研は、優れた劇作家であると同時に名エッセイストでもあり、生涯に書き表したエッセイは優に500編を超える。そのほとんどを初めて本にまとめたのが、この『宮本研エッセイ・コレクション』全４巻である。収録にあたっては、初出発表年ごとに４巻に分け、さらにテーマごとに章立てをして、各章内は原則として発表年月日順に配列した。このエッセイ・コレクションは、いわば宮本研の「もう一つの作品集」と言えよう。この本は、その１巻目である。

◆3240円・四六判・351頁・**一葉社**・東京・2017/12刊・ISBN9784871960663

『松江城をつくった堀尾一族のあしあと』●石井　悠著

松江といってすぐに頭に浮かぶのは、ラフカディオ・ハーンこと小泉八雲、それと茶道文化を広めた松平治郷(不昧)だろうか。茶道に欠かせない和菓子が京都や金沢と並んで有名である。が、何といっても国宝・松江城を第一に挙げる人が多いに違いない。城をつくったのは堀尾吉晴。大河ドラマ『功名が辻』によってその名が注目されたのは記憶に新しい。信長・秀吉に仕えた尾張出身の武将で、とくに秀吉からの信頼が篤かった人物である。所領も転々と移動したところから城普請にも精通した。

今風に言えば、仕事ぶりが優秀な転勤族といったところか。息子忠氏の時に関ヶ原の戦いで徳川方に味方し、出雲・隠岐を拝領。月山富田城の軍事防御や交通の便などの悪さから、中世以来水運や港町で栄えた「末次」・「白潟」の地に城を築く。宍道湖と中海との間に形成された砂州であり、陸・海の交通の要衝である。掘割を巡らした天守閣および城下町の完成は忠氏の子・忠晴時代である。

◆1296円・Ｂ６判・214頁・**ハーベスト出版**・島根・2017/10刊・ISBN9784864562508

『メタファー思考は科学の母』●大嶋　仁著

著者は歌はいのちの力であると言い、文学は個人の心や社会を育て人類を守るなどと言うが、本書は、情動教育が大切だといった類の素朴なエッセーではない。脳科学や精神分析の見解を引用しながら、対象を別のものに喩えたり、自己の身体感覚や生命感覚を世界に投影するアニミズム的と言ってもいいメタファー思考が、実は人の認知機能を支えており、「物語は脳に備わっている」ということを考察した科学的な論考の書である。本書で取り上げられている認知科学者のマーク・ターナーは、人のメタファー能力は、文学上の表現手法としてばかりではなく、人間の思考の基本方式であると言っているという。概念的論理的な思考はその基本があって初めて十全に育まれる。この、認識や思考の基層としての物語能力が近代になって生み出した個人史物語として、志賀直哉の『暗夜行路』が精神分析的視点でとり上げられる。またさらに、神話なき時代に社会の自己形成に必要な社会の物語の例として、フォークナーの『響きと怒り』が考察される。

◆2052円・四六判・229頁・**弦書房**・福岡・2017/10刊・ISBN9784863291577

『文字と楽園　ー精興社書体であじわう現代文学』●正木香子著

百年以上の歴史を持つ印刷会社「精興社」。創業者の白井赫太郎はオリジナル活字の開発に着手し、活字彫刻家の君塚樹石に書体を依頼して完成したのが精興社書体で、多くの作家と読者に長年愛されてきた。十歳の時にミヒャエル・エンデの「はてしない物語」でこの活字に出会った著者は文字の生命力、書体の個性に魅了されるようになる。

精興社書体がよく似合うのは川上弘美、三島由紀夫は「金閣寺」というひとつの作品で三つの書体を体感した、精興社書体で受賞作が出版された芥川賞作家は現時点でわずか三人しかいないなど、独特のエピソードを織り交ぜながら、精興社書体で書かれた現代文学を取り上げ、自身の読書観を示す。日本語で思考しながら同時に文字を思い浮かべ、話す時も聞く時も音色や味覚でさえ文字のイメージが浮かぶ著者は言わば「絶対文字感」の持ち主。新鮮な視点から活字の語る声を聞かせてくれる。

◆1620円・四六判・221頁・**本の雑誌社**・東京・2017/11刊・ISBN9784860114060

地方小出版流通センター　ジャンル別新刊案内

2017年11月1日～30日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は税込（消費税率8%）表示です。

【雑誌】

◆**ゆきのまち通信**　173　企画集団ぷりずむ編　A5　50頁　500円　企画集団ぷりずむ［青森］978-4-503-21313-6　17/11

◆**SPRIDE**　vol.18　2018年1月号　渡辺　直明編　A4　94頁　730円　下野新聞社［栃木］978-4-88286-660-2　17/12

◆**GREEN REPORT**　455　2017年11月号　廣瀬　仁編　A4　192頁　2800円　地域環境ネット［埼玉］978-4-905457-87-9　17/11

◆**響き合う街で**　No.82　2017年11月号　やどかり出版編　B5　66頁　1296円　やどかり出版［埼玉］978-4-503-21327-3　17/11

◆**くらしと教育をつなぐ　We**　No.211　2017年12／1月号　中村　泰子編　稲邑　恭子編　A5　80頁　864円　フェミックス［神奈川］978-4-903579-80-1　17/12

◆**Be!**　129号　No.155　今成　知美編　A5　111頁　864円　アスク・ヒューマン・ケア［東京］978-4-909116-01-7　17/12

◆**仏事**　No.206　2017年11月号　奥村　昇編　A4　104頁　1620円　鎌倉新書［東京］978-4-503-21270-2　17/11

◆**仏事**　No.207　2017年12月号　奥村　昇編　A4　92頁　1620円　鎌倉新書［東京］978-4-503-21335-8　17/12

◆**月刊住職**　No.228　2017年11月号　矢澤　澄道編　A5　201頁　1404円　興山舎［東京］978-4-908027-43-7　17/11

◆**子どもの文化**　No.560　2017年12月号　片岡　輝編　A5　47頁　313円　子どもの文化研究所［東京］978-4-503-21333-4　17/12

◆**the座**　No.94　高橋　彩子編　B5　37頁　1000円　こまつ座［東京］978-4-503-21332-7　17/11

◆**茶道の研究**　No.744　2017年11月号　三徳庵編　A5　88頁　540円　三徳庵［東京］978-4-503-21271-9　17/11

◆**東京かわら版**　No.531　2017年12月号　佐藤　友美編　204mm × 108mm　162頁　500円　東京かわら版［東京］978-4-503-21324-2　17/11

◆**俳句四季**　No.484　2017年12月号　西井　洋子編　松尾　正光編　B5　160頁　930円　東京四季出版［東京］978-4-503-21317-4　17/11

◆**みんなの図書館**　No.488　2017年12月号　図書館問題研究会編　A5　80頁　810円　図書館問題研究会［東京］978-4-503-21316-7　17/11

◆**おりがみ**　No.509　2018年1月号　日本折紙協会編　A4　51頁　786円　日本折紙協会［東京］978-4-86540-056-4　17/12

◆**海運**　No.1082　2017年11月号　日本海運集会所編　A4　72頁　1296円　日本海運集会所［東京］978-4-503-21272-6　17/11

◆**Fuji Airways Guide**　No.643　2017年12月号　フジ・インコーポレーテッド編　B5　97頁　380円　フジ・インコーポレーテッド［東京］978-4-503-21325-9　17/11

◆**フライの雑誌**　第113号　堀内　正徳編　B5　136頁　1836円　フライの雑誌社［東京］978-4-939003-72-1　17/11

◆**FRAGRANCE JOURNAL**　NO.449　2017年11月号　宇野　浩一編　B5　128頁　2880円　フレグランスジャーナル

売行良好書　期間：2017年11月15日～12月14日

［出荷センター扱い］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『東京の森のカフェ』1404円・書肆侃侃房　(2)『夏がとまらない』1080円・ナナロク社　(3)『図書の修理とらの巻』1404円・澪標　(4)『赤ずきんとオオカミのトラウマ・ケア』1944円・アスクヒューマンケア　(5)『超なんでやねん』1620円・書肆侃侃房　(6)『大阪弁の犬』1728円・フリースタイル　(7)『なにわ大坂をつくった１００人』1728円・澪標　(8)『死民と日常』2484円・弦書房　(9)『遅れ時計の詩人』2160円・編集工房ノア　(10)『物語の森へ』3888円・東京子ども図書館　(11)『日光パーフェクトガイド　改訂新版』1620円・下野新聞社　(12)『毒毒植物図鑑』1944円・南方新社　(13)『忘却の引揚げ史』2376円・弦書房　(14)『奇跡のシェフ』1512円・上毛新聞社

［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『昭和プロレスマガジン　４４』1000円・昭和プロレス研究室　(2)『東京かわら版　１２月号』500円・東京かわら版　(3)『おすすめ文庫王国２０１８』820円・本の雑誌社　(4)『本の雑誌　４１５号』880円・本の雑誌社　(5)『高尾山・景信山・陣馬山登山詳細図』823円・吉備人出版　(6)『山梨東部の山登山詳細図　東編』972円・吉備人出版　(7)『大阪弁の犬』1728円・フリースタイル　(8)『古典名作本の雑誌』1728円・本の雑誌社　(9)『東京の森のカフェ』1404円・書肆侃侃房　(10)『上杉謙信』6480円・高志書院

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『北海道地図の中の廃線』6480円・亜璃西社　(2)『東京の森のカフェ』1404円・書肆侃侃房　(3)『遅れ時計の詩人』2160円・編集工房ノア　(4)『エゾナキウサギ』1944円・共同文化社　(5)『柴田錬三郎の世界』972円・日本文教出版　(6)『対談　私の白川静』1000円・エディシオンアルシーヴ　(7)『糖尿病は”砂糖”で治す！』1944円・鉱脈社　(8)『伯備線写真集』2160円・今井出版　(9)『つまみ細工』2160円・かりん舎　(10)『木村草太の憲法の新手』1296円・沖縄タイムス社　(11)『奥多摩登山詳細図（東編）』950円・吉備人出版

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

▼ **第33回梓会出版文化賞に石風社**（福岡市）、同特別賞に**無明舎出版**（秋田市）が決定いたしました。石風社は１９８１年の創業以来、地域に根差して出版文化の質的向上と発展に寄与したことや、近刊の『熊本地震－明日のための記録』『アフガン・緑の大地計画』（中村哲著）などが高く評価されたとのことです。石風社には他に『医者井戸を掘る』『医者、用水路を拓く』等、パキスタン北西辺境州やアフガニスタンでの医療活動、水資源確保事業を続ける中村哲医師やペシャワール会関連書籍が数多くあります。また特別賞の無明舎出版の最新刊は【北前船寄港地ガイド】です。著者の加藤貞仁氏は北前船研究の第一人者とのことです。贈呈式は、2018年1月18日（木）17時30分～神楽坂 日本出版クラブ会館にて行われる予定です。同賞については、ホームページに以下のような説明が掲載されています。〈出版界には、作品・著作者を表彰する賞は多数ありますが、出版社を対象に顕彰する賞は、わが国では類を見ません。昨今の出版界は前例のない変容期に直面し、活字文化の存続を危ぶむ声すらあります。本賞は、このような状況のもとで、なお優れた出版活動を行っている出版社を激励することを目的としています。〉

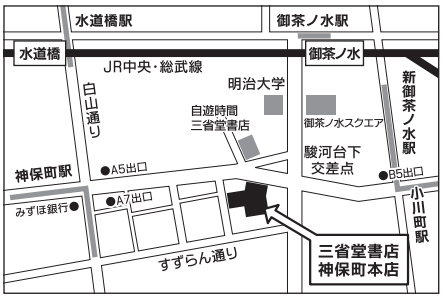
郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。
◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。

★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店　営業のごあんない

神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。